



平田 昇議員

さつま町をしつかりした町にしよう。

それには、

一、何故合併したのかを考える

一、国の合併策に甘い期待は持たない

一、自ら協働に加わる自治意識を持つ

一、全町を視野に入れて地元を考える

一、何をどう改革していくか、正しい世論を興し、行政を動かす

一、税の使い方に厳しい目を持つ

一、現在だけでなく、子や孫たちの事も考え、互いに協力を

持つ

これが、さつま町の町民が持つ心であり、

行動であると信じます。



市来 修議員

時代の変遷により平成の大合併で、新「さつま町」となったのスタートですが、大変厳しいものがあります。その要因は、まず財政です。多額の町債残、増加の見込の薄い町税、人口は二万六、六〇〇人で、うち七〇歳以上の人が七千人、この比率は二七割となります。少子化で税収は減少し、高齢化で社会保障費は増加します。このような状態なので、活発な経済活動に取り組み、町民所得向上の施策が不可欠であります。今まで地域社会の発展のため、汗水流していただいた高齢者の方々が、安心して暮らせる福祉対策を強く要望します。



永福明治郎議員

いよいよ、新町「さつま町」がスタートします。合併を機に、道路交通網や住環境整備の充実を図り、北薩地域の拠点都市となるような取り組みが望まれます。そして、合併協議の協議に基づき、各種施策の展開を行うとともに、町民総参加で後世に自信を持って誇れる町づくりに取り組み、いくことが肝要であると考えます。

今後の新町「さつま町」の輝かしい発展を、心から祈念します。



浜田 等議員

すばらしい歴史と自治に育まれた宮之城・鶴田・薩摩の三町は大合併し、新たな自治の希望に燃える「さつま町」が誕生します。これまで隣町のおつき合いで培われてきた絆が礎となつて、これからの新しい時代に大きな華を咲かせます。そのためには、町民すべてが一体感を持ち、明るく・住み良い・希望の持てる町の建設を目指すこと。一つには、自然環境に恵まれ、農・畜産物生産の豊富な町、小粒でもピリッと味があつた誇りの持てる町でありたい。そして、隣の市や町となかよく交流してこそ、北薩摩の中心都市「さつま町」は、永久に発展することでしょう。



肥後 紀康議員

未来というものは、決して与えられるものではない。自ら成し遂げるものだと言われた方がおられます。

私も、新「さつま町」が自ら事業を発想し、

町民のみなさんの力で

実行するならば、理想的な町づくり、又は地域づくりができるのではないのでしょうか。

元氣あるさつま町を目指してがんばりましょう。

みんなで作ろう

みんなで作ろう

「さつま町」を